

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	くまもとけんりつせいせいこうこうとうがっこう				②所在都道府県	熊本県
26～30	① 学校名	熊本県立済々躰高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	在籍者総数 普通科1236名 (平成25年4月8日現在)	
普通科	40	40	40		120		
(※但し平成27年度以降入学生は学年80名)							
⑥研究開発構想名	国際的素養を備え世界をリードする済々多士教育プログラムの開発						
⑦研究開発の概要	『持続可能性を確保する開発と地球環境保全のあり方』をテーマにした課題研究「SG Research Project」及び外国語によるコミュニケーション能力の向上を目指した「SG Communication Project」を実施する。後者は、DDP講座(Discussion・Debate・Presentation講座)とCS講座(コミュニケーションスキル講座)の2つにより構成し、課題研究を支援する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>グローバルリーダーに必要な国際的素養として(ア)～(エ)の力を育成するとともに教育課程の研究開発を行い、研究成果を普及させる。</p> <p>(ア) 国際感覚と日本人としてのアイデンティティ(現代社会に対する強い関心、地球的視野で思考する態度を育て、国際社会に生きる日本人としての伝統・文化・歴史等に関する深い教養を身につけさせる)</p> <p>(イ) 課題設定・解決力(論理的思考や科学的思考に基づいた課題解決のためのアプローチを行い、統計学等の数理的リテラシーとICT活用などの情報リテラシーを駆使する基本的な力を養成する)</p> <p>(ウ) コミュニケーション能力(英語を情報伝達のツールとして活用し、発表・討論・交渉を英語で行う力を育成する)</p> <p>(エ) クリティカルシンキングとクリエイティビティ(批判的な思考を働かせて能動的に捉える思考習慣を育て、既成の概念を越えた創造力を持ってイノベーションにつなげていく力を育む)</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校には内外を問わず活躍するグローバルリーダーの育成を要請する声が各界からあり、地域の期待も大きい。高校から海外に留学する生徒、海外の大学へ進学する生徒は毎年数名に留まっているため、早期に国際的視野の拡大を図ることが必要である。</p> <p>(仮説i) SG Research Projectを通じて、現代社会が抱える問題に対する関心を深め、地域の課題と世界の課題を結びつけて地球的視野で思考する国際感覚を育成するとともに、国際社会に生きる日本人としての自覚を育み、日本の伝統・文化・歴史等に関する深い教養を身につけることができる。(国際感覚)また、研究論文の作成を通じて、論理的思考や科学的思考に基づき、課題を設定し解決に至る課題設定・解決力を養成することができる。(課題設定・解決力)</p> <p>(仮説ii) SG Communication Projectを通じて、情報伝達のツールとしての外国語活用能力(英語)が向上する。『社会と情報』の中で実施するSG DDP講座により、英語による発表・討論・交渉能力の基礎を養成し、SG CS講座により、英語による実践的な情報収集能力と発信能力を向上させる。(コミュニケーション能力)</p> <p>(仮説iii) SG Research Project 及び SG Communication Projectを通じて、批判的な思考を働かせて能動的に捉える思考習慣を身につけるとともに、既成の概念や知見を越えた創造力を持ってイノベーションにつなげていく力を育み、グローバルな視点を持って海外での活動に従事するグローバルリーダーが増加する。(クリティカルシンキングとクリエイティビティ)</p> <p>(3) 成果の普及</p>					

		<p>(ア) 開発教材と成果を冊子にまとめ、他の学校へ配付。必要に応じて研究会を実施する。</p> <p>(イ) 研究成果報告会（論文発表等）を実施。地域の学校や保護者へ成果を公開する。</p> <p>(ウ) ホームページにSGを特集したコーナーを設置し、活動の状況を公開する。</p> <p>(エ) 英語版ホームページを作成し、海外の提携先に発信、または交流の場とする。</p>
<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>		<p>(1) 課題研究内容 「持続可能性を確保する開発と地球環境保全のあり方」をテーマとして、気候変動、水質汚染、生物多様性の喪失、大気汚染、化学物質、生態系、森林伐採など、地球環境の開発と保全等について研究する。地域特有の問題である水俣病、有明海の再生と生態系の問題、大陸からの越境大気汚染の問題、さらには水道資源のほぼ100%を地下水で賄う豊かな水資源など、地域に密着した研究と世界の環境問題をパラレルに展開し、研究していく。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 (ア) 平成26年度は、総合的な学習の時間及び長期休業期間や週末の時間を利用して、全校生徒または希望者に課題研究のテーマに関する取組を実施する。 (イ) アクティブラーニング等の指導方法及び教材の開発、教育課程の研究及び評価方法の研究と開発を行う。 (ウ) 海外研究機関や大学・高校と連携し、環境調査・研究を実施する。 (エ) WEB会議やICTを用いたアクティブラーニングを実施するための環境を整備する。 (オ) 1学年を対象としてSGコース希望者40名（平成27年度以降は80名）を募集する。環境に関わる専門家（大学・企業・NPO法人等）による講演・講義、外国人留学生との国内フィールドトリップやワークショップ、WEB会議等により研究を深める。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 平成26年度においては教育課程の特例を用いない。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>		<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 SG Communication Project：DDP 講座（ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション講座）とCS 講座（コミュニケーションスキル講座）実施に関わる教材と指導方法の研究開発を行う。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 平成26年度においては教育課程の特例を用いない。</p> <p>(3) グローバルリーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法 a 県教育委員会と連携して帰国・外国人生徒の受け入れ体制を整備し、積極的受け入れを推進する。 b 県内の熊本大学・熊本県立大学・熊本学園大と連携し、環境問題、環境政策等について研究している外国人留学生とのワークショップを定期的実施する。また、グローバル人材育成を推進する県外の大学（東京大学・九州大学・立命館アジア太平洋大学等）とも連携する。 c ユニセフ等の企画や活動と連携し、ボランティアワークのリーダーを育成する。 d SGコース全員が英語ディベートを経験し、課題研究の内容を英語を使って発表したり議論したりする力を育成する。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>		<p>SG Advisory Board（評価助言委員会）の設置。世界の舞台で国際的に活躍する方、また本県に造詣の深い方をメンバーとして、研究開発の推進状況についての助言を得るとともに、講演会等の講師を依頼する外部機関としての機能を設けた。</p>